

2021年9月27日

長崎県知事 中村法道 様

## 石木ダム建設工事をただちに中止し、無条件で 住民との対話を実現することを再度求める要望書

いしきを学ぶ会実行委員会  
世話人 森下 浩史

長崎県は、“故郷に住み続けたいだけ”という川棚町川原地区住民の願いを踏みにじって、石木ダム建設工事を強行し続けています。

私たちは、4月26日、「長崎県の3大悪政に抗議する4.24鉄橋共同街頭宣伝集会」で採択した「集会宣言」を県知事に提出し、集会参加者一同の声として、石木ダム建設について、「県民に納得のいく丁寧な説明をすること」を要望しました。

また、7月12日には、県庁前で行われた7.12石木ダム建設反対緊急行動の参加者一同の声として、「ただちにダム建設工事を中止し、無条件で住民との対話を始めること」を知事に要望しました。

しかし、知事は、県民に対して丁寧な説明をする場を設けるどころか、ダム建設で水没する川原地区住民に対してすら納得のいく説明をしないまま、9月8日、ダム本体工事に着手しました。

水没予定地域で暮らす住民の理解が得られないまま、住民を強制的に排除してダムを建設した事例は、これまで全国どこにもありません。知事が9月9日の会見で述べたように、「地権者の理解を得た上で円満に工事を進める環境を整えることが一番大事」であり、住民の理解が得られないまま、工事を強行することがあってはなりません。ましてや、行政代執行によって反対住民を強制排除しての建設強行など、絶対にあってはなりません。

知事が、「地権者の理解」を得たいと望んでいるのであれば、ただちに建設工事を中止し、無条件で住民との対話を実現させるべきです。

私たちは、あらためて中村知事に以下のことを強く要望します。  
＜県知事はただちにダム建設工事を中止し、無条件で住民との対話を始めること＞